

## おおつじけん 大津事件ってなに？

いま ねんまえ ねん めいじ ねん  
 今から133年前の1891年(明治24年)、ロシア  
 こうたいし  
 皇太子ニコライ・アレクサンドロヴィッチ(のちのロシア  
 こうてい  
 皇帝ニコライ2世)が、甥のギリシャ王子ジョージと  
 にほん  
 ともに日本に来ました。これは、ロシアを横断するシベ  
 りア鉄道をつつどう えんちよう こうじ きこうしき しゅつせき  
 リア鉄道を延長する工事の起工式に出席するために、  
 うらじおすとく  
 ウラジオストックに向かう途中に立ち寄ったものでし  
 た。4月27日に船で長崎に到着したニコライ一行は、  
 こうべ へ きょうと いた せいたい かんげい う  
 神戸を経て京都へと至り、盛大な歓迎を受けました。京都  
 では、りんじ だいもんじ おく び てんか  
 臨時で大文字の送り火が点火されたほどでした。

5月11日、一行は東海道を人力車にゆられて大津に  
 はい おんじょうじ みいでら いしやまでら こびじゅつひん かいが  
 入り、園城寺(三井寺)と石山寺で古美術品や絵画を  
 かんしょう  
 鑑賞しました。その次に向かった唐崎では、ニコライは  
 ようい こぎよ あみ からさき  
 用意された湖魚を網ですくってはしゃぎました。唐崎か  
 らはきせん の こ おおつこう じょうりく けんちよう ちゅうしょく  
 らは汽船に乗り込み大津港に上陸、県庁で昼食をとりました。

そして、そこから京都に戻ろうとした一行を、沿道で警備にあたっていた警察官の1人である、津田三蔵が襲いました。津田は、ニコライの後頭部をサーベルで2回も斬りつけた後、取り押さえられました。幸い、ニコライは命に別状はなかったものの、8針縫う傷を負いました。

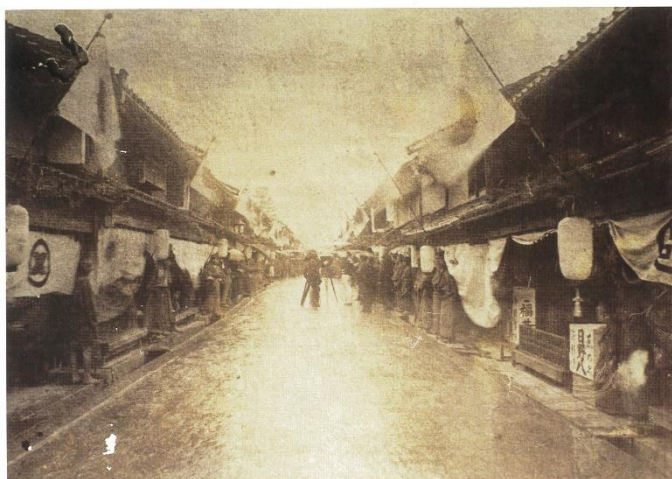
この事件は日本中を大変驚かせ、日本政府はロシアが報復してくるのではないかと恐れま  
 した。そのため明治天皇が自ら京都のニコライを見舞い、神戸から帰国の船に乗るまでニコラ  
 イに同行しました。

また日本政府は裁判官に対して、「大逆罪」という罪で津田を死刑にするよう圧力をかけま  
 した。しかし裁判官はそうした要求をはねのけ、日本の法律に基づき「謀殺未遂」による無期  
 ちようえき はんけつ くだ さいばんかん しほうけん どころつ まち じけん し  
 懲役の判決を下しました。これは、裁判官が「司法権の独立」を守った事件として知られてい  
 ます。

ニコライが斬りつけられた現場(現在の津市京町2丁目)には、大津事件の記念碑がいま  
 も建てられています。



ニコライ(右)とジョージ(左)  
 (滋賀県立公文書館蔵)



じけんはっせいとうじ きょうまちどおり ようす  
 事件発生当時の京町通の様子(個人蔵)

## 戦時下の滋賀県と空襲

今から80年前、太平洋戦争最中の1944年(昭和19年)6月、政府は空襲に備えて、東京や大阪などの国民学校初等科児童(今の小学生)の集団疎開を決めました。滋賀県は比較的 안전한地域と考えられたため、学童疎開の受け入れ県となりました。

大阪市から疎開してきた子供たちの世話をした人の日記には、お米などの食べ物ものが少なくなっていたため、菜っ葉はをご飯ごはんに混ぜて出していたこと、小さなイモを煮たものでも子供たちは大喜び

するようになっていたことなど、当時の生活のようすがよく書かれています。疎開先の生活では、食べ物ものの不足だけではなく、シラミの退治にも大変苦労したようです。

疎開の受け入れ先となった滋賀県ではありましたが、空襲と無関係ではありませんでした。西日本に空襲するアメリカ軍機は、伊吹山や琵琶湖を目標として飛行してきたため、県の上空をたびたび通過しました。



さかえこくみんがっこう おおさか そかいじどう りょうぼ じょせい  
栄国民学校(大阪)の疎開児童と寮母の女性

(提供: 滋賀県平和祈念館)



ながはまし こうじょう こうしゅう べいかいぐん  
長浜市の工場を空襲した米海軍の  
艦上爆撃機 (中島孝治さん撮影)

そして、1945年(昭和20年)5月頃から8月にかけては、滋賀県内各地の軍需工場(兵器などをつくる工場)や軍事施設のほか、駅、列車なども空襲を受け、その範囲は、北部は長浜市、南部は大津市、甲賀市におよびました。大きな爆弾や焼夷弾を使った爆撃は、東京や大阪のような都市に比べると少なかったものの、機関銃による地上銃撃がたびたび行われ、幼い子供までもが犠牲になりました。

また、大津市では、魚雷の製造工場となっていた東洋レーヨン滋賀工場(現在の東レ)にパンプキンと呼ばれる原子爆弾の模擬爆弾が投下され、死者16名、重軽傷者104名という大きな被害がでました。

1945年(昭和20年)8月の終戦までに、県内への空襲で50名以上が亡くなり、180名以上が重軽傷を負ったといわれています。

参考文献: 『12歳から学ぶ 滋賀県の歴史 新版』

(サンライズ出版、2022年)